

地域支援プロジェクト 地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発 : 2015年度 (平成27年度) 報告書

著者	小澤 永治, 橋 佳代, 稲谷 ふみ枝, 平田 祐太郎, 江口 夏紀
ファイル (説明)	奥付 最終章 第4章 第3章 第2章 第1章 学長/研究科長メッセージ 目次 [表紙]
別言語のタイトル	Community Support Project Annual Report 2015
URL	http://hdl.handle.net/10232/26460



学長メッセージ

鹿児島大学学長 前田 芳實

2015年度（平成27年度）の鹿児島大学は、第2期中期目標である鹿児島大学憲章に基づいた『進取の気風にあふれる総合大学』を目指して実践してきた最終年度でした。この実現のため、大学の地理的特色を活かした、島嶼、環境、食と健康、水、エネルギーをテーマとしたグローバルな課題解決のための研究活動に挑戦するとともに、地域社会の活性化に向けて、社会に開かれたキャンパス環境整備を実践して参りました。また、4月には、社会の変化に対応した教育研究組織づくり、教育課程の編成及び学内資源の再配分を全学的な視点で柔軟かつ迅速に進めるため、従来の教育研究組織を教員組織と教育研究組織に分離し、新たに学術研究院制度を導入しました。これにより教員組織を5つの学域と13の学系からなる組織に改編し、教育の機動性を高めました。現在は、第3期中期目標・中期計画として、「南九州及び南西諸島域の『地域活性化の中核的拠点』としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する『進取の精神』を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、『進取の気風にあふれる総合大学』に相応しい大学改革」を挙げ、諸目標を立案したところです。

臨床心理学研究科は、専門職大学院として臨床心理士ならではの地域貢献の可能性を具現化するものとして、2010年度（平成22年度）に文部科学省特別教育研究経費プロジェクト「地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな『実践型教育プログラム』の開発」に採択されました。教員と学生が協働して様々な地域に出向き、講演会・研修会・事例検討会・相談支援といったデリバリー方式によるアプローチを行う斬新な取組は、本学の趣旨に合う活動であると認められ、事業終了後の現在も、経常予算化しています。本事業は、地域ニーズに即した講演活動から着手され、徐々に発達障害児者の初期支援活動に広がり、今年度は、認知症高齢者支援に向けた国際交流やワークショップを開催するなど社会のニーズに応えるべく発展しています。まさに鹿児島大学が掲げる中期目標である地域貢献と国際交流に合致した活動であると同時に、全国の臨床心理士養成大学院のリーダー的存在である臨床心理学研究科の教育的根幹と期待されるものです。

今後、本事業の活動を通して、国際的視野と地域文化の視野の両方を兼ね備えた学生を育て、地域の皆様の心の健康に寄与できることを心から願っています。



研究科長メッセージ

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科長
プロジェクト統括 中原 睦美

臨床心理学研究科は、2007年（平成19年）4月に専門職学位課程として高度専門職業人である臨床心理士養成を主眼として設置され、目指す人材育成のひとつに「地域文化を理解し支援できる人材養成」を挙げています。これを達成すべく付設心理臨床相談室活動を実践し、加えて2010年度（平成22年度）に「地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな『実践型教育プログラム』の開発」が文部科学省特別教育研究経費プロジェクトに採択され、事業終了後も活動を継続する中、2014年度からは大学から経常経費化を承認いただいております。

この成果は、日本心理臨床学会にて毎年発表しており、今年度は地域支援活動と学生教育を繋ぐ内容で通算10回目の発表となりました。また、年度ごとに報告書を発行し、研究科付設心理臨床相談室紀要にも6本まとめるなど積極的に公開して参りました。本事業は、デリバリー方式の地域支援活動という特徴をもち、鹿児島大学の第2期・第3期中期目標と合致するものです。大学院生の参加形式も、近年は、発達障害児の初期支援を目指した発達検査の実施まで広がり、地域の保護者や行政機関からも高く評価されております。2015年度（平成27年度）は、さらに領域を認知症高齢者支援にも広げて参りました。現在、本事業を学生教育の一環としてカリキュラムに取り込むべく現行の授業との連携を模索したり、支援対象を広げるべく法学諸分野と協働し法政策学科や司法政策教育研究センターと共同で新たな外部研究費を申請したりしております。

今回の報告書は、本年度における本プロジェクトの主な活動をまとめたものです。第1章事業の概要から始まり、第2章は、学生教育に向けた実践内容を就学相談及び高齢者対象の「私のアルバム」作成の様子、第3章は、国際交流としてウプサラ大学大学院博士後期課程の大学院生との交流会及びオランダから専門の講師を招聘してのバリデーションワークショップの報告、第4章は、活動実績や支援活動、学会発表等研究成果の公表、そしてまとめとなる最終章という5部構成になっております。読者の皆様にはご一読いただき、ご感想やご意見をお寄せいただけますと幸いです。